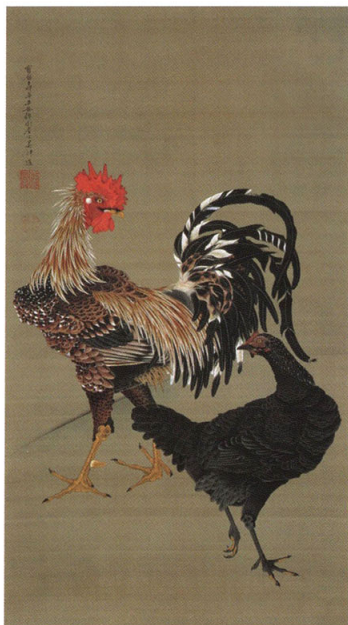




智仁勇 山元春挙 大正14年(1925) 対幅 絹本着色 本紙各170.8×113.8 総各282.9×139.7



<参考図版> 大鶏雌雄図 伊藤若冲

<参考図版> 群鶏図 伊藤若冲

「智仁勇」は『論語』などで説かれた三つの徳のことである。本作は、作者の記した解説によれば、鷹が雀を狩るのが勇、その雀によって暖をとるのが智、そしてその雀の命をとることなく放してやるのが仁であるとする伝説に基づくとという。大正14年の大婚二十五年の折に宮内省の依頼により制作されたもので、大婚二十五年式典の折に〔西溜の間〕の南壁面を飾り、その後も同部屋の装飾として使用されていたことが写真等から確認された。また、これまで『鳳闕』などに掲載された写真(80頁下)には、18世紀の画家、伊藤若冲の「動植綵絵」30幅(当館蔵)のうち左の2幅がこの室内の南壁面に掛けられている。河鱈實英「明治宮殿の思出」(95頁参照)の記述などにより、大正期から昭和初期にかけて、皇室御慶事や外国賓客接遇の折などに「動植綵絵」が明治宮殿を飾っていたことが確認された。〔西溜の間〕南壁面は掛幅装の作品を装飾する場でもあったようである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

幻の室内装飾 — 明治宮殿の再現を試みる

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 56

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十三年九月二十三日発行

© 2011 The Museum of the Imperial Collections